Part 1

新たなスタートをきる社会人へ贈る言葉 …… 9

㈱フェアウインド代表取締役・経営コンサルタント　中井 嘉樹

- ●新入社員として企業から期待されていること …… 10
- ●新入社員時代は慣れないことの連続 …… 10
- ●新入社員研修・OJT研修で学ぶべきこと …… 11
- ●これからのキャリア形成で心がけること …… 13
- ●成功する人生を歩むために …… 14

Part 2

新入社員に期待する7つの言葉 …… 15

㈲キャリアドメイン代表取締役　谷所 健一郎

- ●積極的に仕事に取り組め …… 16
- ●過大な期待をするな、期待に応えろ …… 16
- ●時間を守れ …… 17
- ●報告・連絡・相談を上手くやれ …… 17
- ●休日の使い方を工夫せよ …… 18
- ●チームワークの大切さを認識せよ …… 18
- ●必要とされる人材を目指せ …… 19

Part 3

成果を出す仕事の進め方 …… 20

中小企業診断士　UT・マネジメントオフィス　木之下 尚令

- ●仕事の目的と目標 …… 21
- ●会社の目的は経営理念 …… 22
- ●仕事と作業 …… 23
- ●仕事の計画と準備 …… 25
- ●仕事の基本はP-D-C-A …… 26
- ●実行のためのポイント …… 27
- ●仕事のチェックと改善 …… 29
- ●失敗は、P-D-C-Aで教科書に …… 30
- ●成長のための仕事の基本は顧客志向 …… 31
- ●継続は力なり …… 32

■私の会社のページ／2　会社概要／3　2021年度・2022年3月／4・5　■図鑑　新入社員の1日の生活／8

Part 4

まずは型を身につけよう 仕事の整理・整頓術 …… 34

㈱T style consulting代表取締役　塗茂 克也

①5S活動は職場の基本 …… 35
②仕事の整理・整頓とその効果 …… 36
③ものを整理・整頓する …… 36
④時間を整理・整頓する …… 38
⑤頭の中を整理・整頓する …… 40
⑥情報を知恵に変えて活用する日常の過ごし方 …… 41
⑦キャリアを立体的に考える …… 43

Part 5

イラストで学ぶ ビジネスマナーの基本と対応 …… 44

スピーチ&マナーズ研究所・病院アメニティー研究代表　田中 敏之

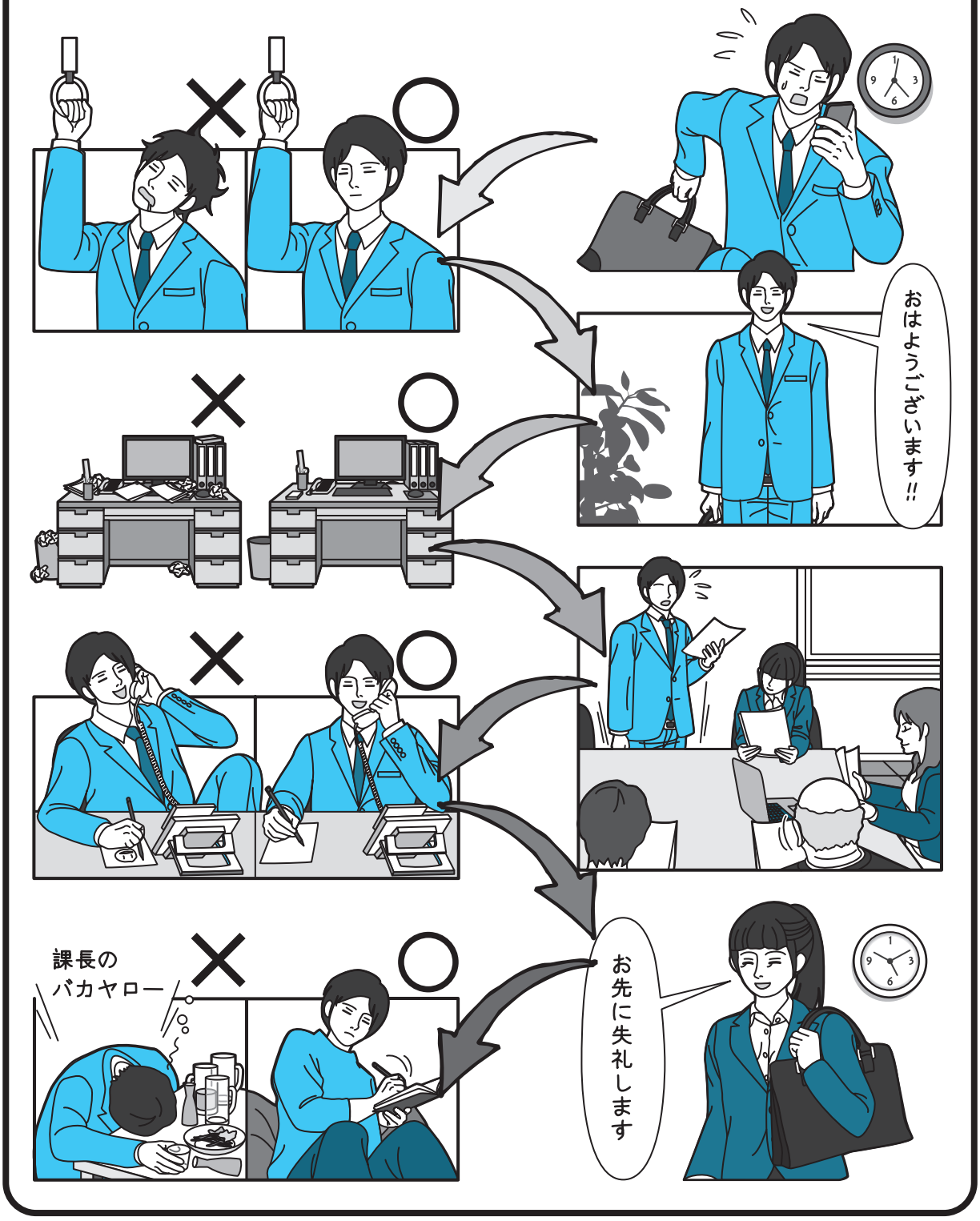
第一部　社会人として必要なマナー五つの基本

Ⅰ挨拶 …… 45
Ⅱ表情（笑顔）は人に安らぎを与える …… 48
Ⅲ姿勢と身体の動き …… 49
Ⅳ身だしなみ …… 55
Ⅴ言葉づかい …… 57

第二部　社会人として実務の基本常識

Ⅰ明るい職場の人間関係 …… 61
Ⅱ電話の応対 …… 63
Ⅲ社内文書・社外文書の書き方 …… 66
Ⅳ資料の整理法 …… 68
Ⅴ正しい席順の常識 …… 70

図鑑 新入社員の1日の生活



Part 1

新たなスタートをきる社会人へ贈る言葉

中井 嘉樹(なかい よしき)

株式会社フェアウインド代表取締役。経営コンサルタント。

同志社大学卒業後、㈱内田洋行、㈱キーエンスを経て、㈱日本ブレーンセンター(現　エン・ジャパン㈱)にてチーフコンサルタント・取締役を務めた後、現職。
専門分野は、経営戦略、リーダー・管理者育成、営業力・販売力強化などの戦略的な組織力・人材力強化を中心としたコンサルティング。豊富な現場実績と体系的な理論に基づいた実践的な指導で定評を得る。中小企業大学校、商工会議所、商工会等の公的機関におけるセミナー講師、各企業における研修企画・講師としても活躍中。
経済産業大臣認定中小企業診断士、経済産業大臣推奨ITコーディネータ。
著書:「チーム力を高める魔法の力」、「はじめての部下指導の心得」、「はじめてのOJTリーダーの心得」(以上、経営書院)、「自分で売るな!部下に売らせろ!」(PHP研究所)、「会社を変える!40歳の仕事力」(共著　PHP研究所)。

連絡先:info@fairwind.ne.jp(会社代表アドレス)

今、我々が生きている世界は大きな変化の中にあります。

科学技術の進歩・IT革命・グローバリゼーションの進展・新興国の台頭・地球温暖化の進行などの多面的な変化がもたらす大変革に直面しています。また、日本国内を見れば、少子高齢化社会の到来・人口減少社会への転換・混迷する経済・雇用の流動化など、我々の生活に直結する複雑で大きな変化が起きています。

新入社員の皆さんが社会に出るまさに今という時代は、このように「変化が常態化」している大きな転換期の中にあります。

新入社員として企業から期待されていること

この激動の時代を生き抜き、新しい時代に向けて新たな飛躍を成し遂げるために、知力を絞り、持てる力を結集し戦っているのが、皆さんが入社する「会社＝企業」なのです。

では、企業が成長し続けるためには、どういった要因が必要となるのでしょうか？

この質問に対する答えとして最も本質を突いているのが、「パッカードの法則」と言われるものです。IT大手ヒューレット・パッカード社の共同創業者であるデビッド・パッカード元CEOが唱えたもので、「企業の成長よりも人材の成長が勝っている企業は、どこまでも伸び続けることができる」というものです。このことは、逆の〝企業の成長の方が、人材の成長よりも勝っている〟状態を考えてみれば理解できます。その場合の企業成長は、実は自力によるものではなく、景気や他の要因による他力によるものであり、こういった状態の会社では、今後次々と襲いかかって来る変化の嵐を無事に乗り切ることは難しく、〝いつか頭打ちになる企業〟であると言えます。

つまり、この激動の時代を生き抜き、輝く未来を切り開けるかどうかは、ひとえに人材力の成長にかかっているのです。そして、これからの企業の人材力を大きく成長させる存在として、会社は皆さん新入社員に大きな期待を寄せています。

新入社員時代は慣れないことの連続

このように皆さんは大きな期待を受けて入社するわけです

が、最初は戸惑うことばかりです。ここで冷静に、これからの皆さんが直面する現実を考えてみましょう。

これまでの人生においては、自分の周囲にいる人たちのほとんどが自分の上下数年の同年代でしたが、社会に出ると世代を越えた人たちと一緒に仕事をすることになります。自分のお父さんどころか、お祖父さんに近い年齢の方々もいらっしゃいます。

学生時代は友人と一緒にいる時間が長く、いわば自分で自分の回りの人間関係を選ぶことができたわけですが、社会に出ればそういうわけにはいきません。上司も同僚も自分で選ぶことはできませんし、ましてお客さまを選ぶなんてことはできるはずがありません。つまり、気の合う友人とだけ付き合って、苦手な人とは付き合わずに済ますことができた学生時代とは異なり、社会に出れば、気の合わない人・苦手な人とも良好な人間関係を作り、維持しなければいけないのです。

また、学生時代は、自分の時間をどのように使うか、何に使うかを自分で決めることができましたが、社会に出ると、自分がすることを自分で決めることはできません。すべて指示に従って動かなければいけません。そして、そこにはその指示されたことをやり遂げなければいけない責任も伴います。

しかも、その指示されたことは皆さんにとって初めて行う仕事ばかりですから、上司・先輩から強い口調で言われることもあるでしょうし、お客さまからお叱りのお言葉をいただくこともあるでしょう。

このように身の回りの環境が目まぐるしく大きく変わる新入社員時代は、誰しもが自分の置かれた環境を厳しく感じてしまうものです。

ここで避けなければいけないことは、自分を見失って安易に他の道を模索してしまうことです。心のバランスを失うことなく1年を乗り切り、3年を越える頃には自分の人生にとって大切なにかが見えてくることでしょう。

これから迎える新入社員時代は、今後の人生の基礎を作るうえでもとても大事な時期なのです。

新入社員研修・OJT研修で学ぶべきこと

皆さんはこれから、自分の足で自分の人生を切り開く第一歩を踏み出し、目の回るような時期を過ごすわけですが、逆

に今のこの時だからこそ学べること・学ぶべきことがたくさんあります。

そのために会社は新入社員研修やＯＪＴ研修を準備してくれていることでしょう。この研修期間は、これからの皆さんのビジネス人生の軸となる大切なものを身に付ける貴重な機会なのです。

これから皆さんが臨む新入社員研修やＯＪＴ研修において学ばなければいけないことは、大きく二つあります。

一つは、「ビジネスの基本」です。例えば、ビジネスマナーや商取引に関する知識、あるいは挨拶の仕方などの知識やスキルの領域です。これらは、日々の仕事をするうえで欠かせないものであり、どんなに時代が変化しようとも守らなければいけないものです。

では、「知識・スキル」があれば、それだけで長期に渡って高い成果を出し続けることができるのでしょうか？　答えは、否です。確かに、成果を上げるためには「知識・スキル」

は欠かせません。かといって、「知識・スキル」だけでは、成果を上げることのできる時もあれば、上げることができない時もあり、バラツキが生じてしまいます。なぜなら、ビジネスの場が変化に満ちており、「知識・スキル」を使用する前段階の判断が重要になってくるからです。

仮に短期的に成果を上げることができたとしても、皆さんのこれから40年に及ぶ長いビジネス人生においては、ほんの一瞬の成功でしかないのです。大切なことは、常に高い業績を上げ続けることのできる人材になることなのです。

この高い業績を上げ続けることができるかどうかのポイントが、新入社員研修やＯＪＴ研修において身に付けるべき二つ目の「正しい考え方・正しい行動様式」です。これは、価値観や労働観といった深い部分ともつながってくるものです。変化が常態化している今の時代においては、直面している状況が常に変化し、前提そのものが目まぐるしく変わっていくため、常に状況に応じた判断や柔軟な正しい意思決定が求められます。正しい判断をすることができるか、あるいは正しい意思決定を下すことができるかといった源には、正しい考え方や正しい行動様式・価値観・労働観を身に付けているかどうかといったことがあるのです。

このように、これから新入社員研修やＯＪＴ研修を受ける新入社員の皆さんにとって、この研修期間中で「知識・スキル」を身に付けるだけに留まらず、「正しい考え方・正しい行動様式」を身に付けることがなによりも大切になるのです。

Part 5

イラストで学ぶ ビジネスマナーの 基本と対応

田中 敏之(たなか　としゆき)
スピーチ＆マナーズ研究所　病院アメニティー研究代表。

慶應義塾大学卒業。1952年～1983年まで日本航空㈱に勤務後、現職。NHK学園講師などを歴任し、社員研修、講演、執筆等に活躍中。
著書:「マナーは優雅に」(朝日新聞社　1989年)、「病気が気づいていない患者さんの悩みこんなところ」(金原出版　2004年)、「現代世界百科大事典」の民間航空部門の一部を執筆(講談社　1972年)、「実践マナー講座」(経営書院　1991年)

第一部 社会人として必要なマナー五つの基本

Ⅰ 挨拶

挨拶は人間関係の基本です。朝、起きてから、夜、寝るまで私たちはあらゆる所で、あらゆる人と顔を合せます。そのときに、気持ちのよい挨拶ができるか、できないかによって、その場の雰囲気に大きな影響を与えます。さて、そのポイントは？

まず、次頁の自己評価シートで、あなたは挨拶やおじぎ、笑顔についてどのように意識しているかを、自己評価してみましょう。

1 挨拶は家庭から始めましょう

ある小学校で、朝起きたら家族で挨拶をするかと問うたところ、約三分の二が、挨拶をしないと答えたという統計があります。まず朝、起きたら家族の間で、「おはよう」の習慣をつけましょう。これが、「挨拶上手」の基本となります。

職場では長い時間、他人と一緒にいます。お互いに気持ちよい「挨拶」を心がけましょう。

2 「おはようございます！」と一声高く

「おはようございます」は、ドレミの「ミ」ぐらいの高さの発声が「明るく」「元気に」響きます。ドレミの「ド」の低い声で「おはようございます」と発声してみてください、非常に暗い印象を相手に与えます。次に、ドレミの「ミ」ぐらいで発声してみてください。後者が一段と元気よく、しかも「明るく」「さわやか」に響きます。

3 挨拶には目も使う

同僚間ならば、「おはよう」と声を掛けあうだけでも結構です。しかし、相手が格上のときは、ほかの動きを止めて、相手に向って、目を見て挨拶するのが礼儀です。

4 知らない人にも挨拶を

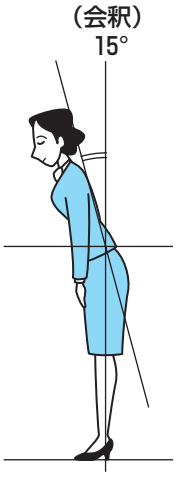
日本人は欧米人に比べて、知らない人には挨拶をしない傾向が強いようです。しかし、何か、きっかけがあれば、知らない人にも、さりげない挨拶をすることにしましょう。本人自身もさわやかになり、相手にも温かい気持が伝わります。

5 おじぎは挨拶に花を添える。丁寧、上品に

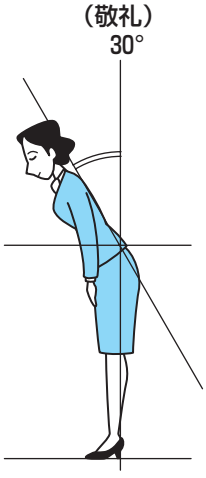
ごく親しい間柄以外は、挨拶にはおじぎが伴います。丁寧な美しいおじぎがあいまって、奥ゆかしい挨拶ができ上ります。

①おじぎには三種類あります。

1 会釈……上半身を約一五度倒します（同僚、ごく親しい間柄との挨拶のとき）。



2 敬礼……上半身を約三〇度倒します（一般のお客様との挨拶のとき）。



自己評価シート（挨拶）

項　　目	はい	さて？	いいえ
1　家族のみんなに毎朝必ず挨拶する。			
2　職場では必ずしも挨拶する方ではない。			
3　挨拶の言葉は明るく大きな声を出す方である。			
4　挨拶のとき自然に笑顔が出る。			
5　挨拶の「おはようございます」のほかに必ず一言を付け加える。			
6　知らない人にはあまり挨拶はしない。			
7　人に笑顔が美しいと言われたことはほとんどない。			
8　挨拶には場所がらを考えて、変化をつけている。			
9　おじぎはその場所、その時に応じて使い分けている。			
10　相手に和やかな表情をするのは不得手である。			

合　計　　点

採点法　(1)　自分で該当すると思う欄に大きな○印をつけてください。
(2)　採点表とコメントは73頁にあります。
(3)　採点表で○印の中に点数を入れて合計点を出してください。